

3-2 校舎の概要

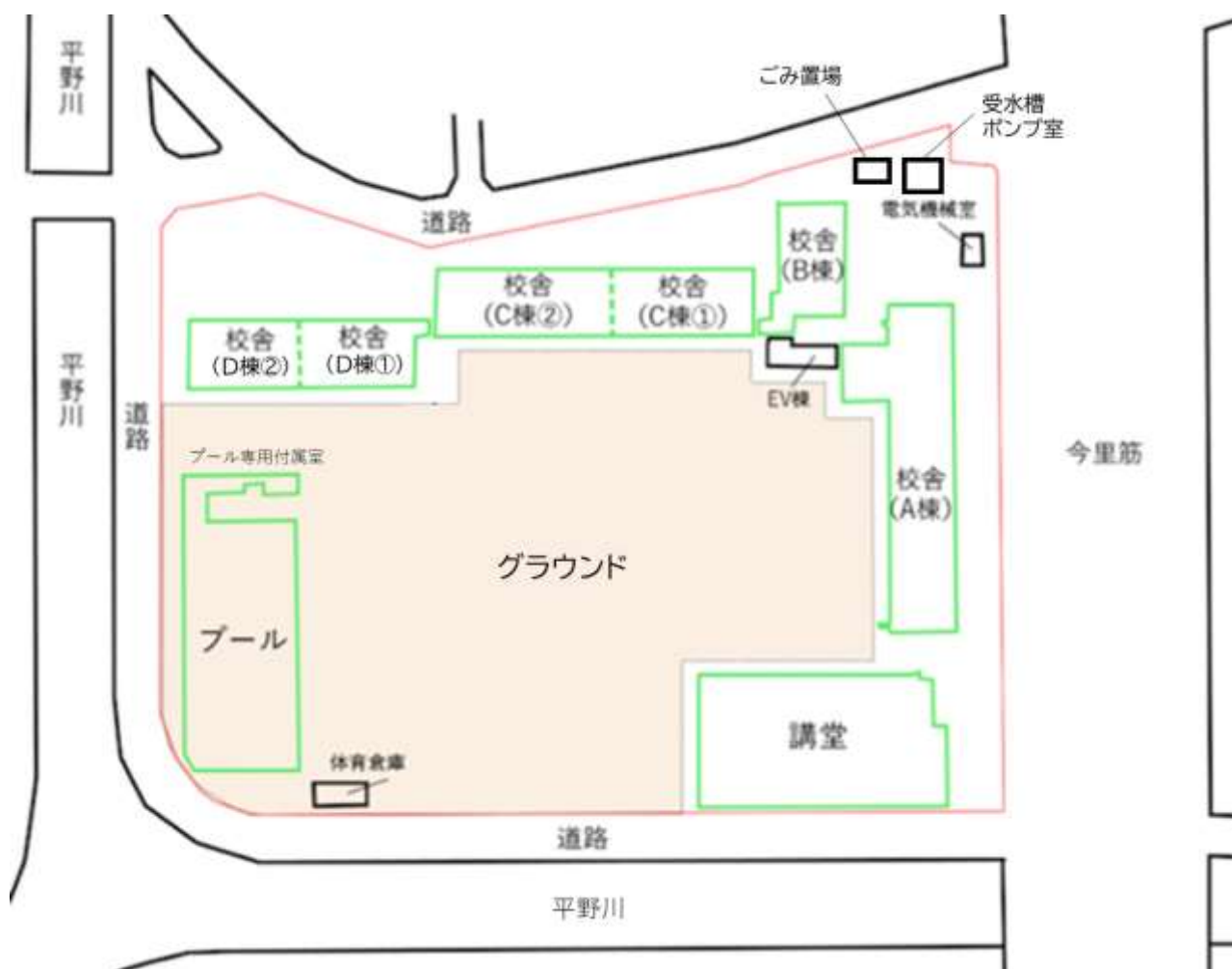


写真：生野南小学校

所在地	大阪府大阪市生野区林寺 6-6-7
土地所有者	大阪市
敷地面積	10,901.68 m ²
延べ面積	5,521.104 m ²
防火地域	防火地域/準防火地域 ※建築物が防火地域と準防火地域にまたがる場合は、建築物全体は防火上の制限の厳しい防火地域となる。
用途地域	第1種住居地域 ※複数の用途地域にまたがる（第1種住居地域/準住居地域）対象地のため、敷地全体の用途制限は、面積が過半を占める第1種住居地域となる。
容積率	300%
建ぺい率	80%
高さ制限	高度地区（最低限第2種） 高さ制限は、用途の境界で分かれ、それぞれに適用する必要がある。 道路斜線：第1種住居地域（勾配 1.25）/準住居地域（勾配 1.25） 隣地斜線：第1種住居地域（勾配 1.25）/準住居地域（勾配 1.25）
道路の概要	東側：幅員 30.0m 市道 西側：幅員 6.0m 市道 北側：幅員 6.0m 市道 南側：幅員 6.0m 市道
避難所指定	災害対策基本法による指定避難所(校舎・講堂)・指定緊急避難場所(グラウンド)
アクセス	JR 関西本線（大和路線）東部市場前駅 北へ約 700m

施設名		延べ面積 (㎡)		構造	階数	竣工年
校舎棟	A棟 E V棟	4,658.45	1,806.33	RC造	地上3階	1995年
	B棟		365.54	RC造	地上2階	1982年
	C棟①		633.17	RC造	地上3階	1969年
	C棟②		825.46	RC造	地上3階	1971年
	D棟①		519.75	RC造	地上3階	1972年
	D棟②		508.20	RC造	地上3階	1978年
講堂棟		724.77		RC造	地上2階	1989年
プール専用付属室		53.64		RC造	地上1階	1990年
体育倉庫		32.00		S造	地上1階	1990年
電気機械室		18.87		RC造	地上1階	1995年
ゴミ置場		8.954		RC造	地上1階	2003年
受水槽ポンプ室		24.42		RC造	地上1階	1982年

[構造] RC造：鉄筋コンクリート造 S造：鉄骨その他造



3-3 立地特性・地域のポテンシャル

生野南小学校周辺地域には、大阪市中央卸売市場東部市場（※1）、百済貨物ターミナル駅（※2）といった物流を担う施設があり、隣接して幹線道路である今里筋が通っていることから、人や物の流入の多い地域となっている。

さらに、この今里筋には、現在、社会実験中のいまざとライナー（BRT）（※3）を含め、複数の路線バスが運行しており、小学校から徒歩10分程の距離にはJR東部市場前駅（※4）がある等、交通の便にも恵まれた立地にある。

また、生野区の製造業・事業所数は大阪市内で1位を誇り、様々な技術を持った製造会社が多数集積している。区が発行するリーフレット「生野ものづくり百景」では、区内の製造業で働く人や技術の魅力を紹介する企業が100社に上る程となっている（令和元年度時点）。区内の中でも、とりわけ生野南小学校が位置する田島中学校区エリアは、製造/ものづくり関連企業が集積するエリアとなる。

（※1）大阪市中央卸売市場東部市場……青果・水産物とその加工品や加工食品料品を扱う大阪市中央卸売市場の1つ。取扱品は、主に大阪府東南部を中心に他府県にも搬出し、集積規模は、取扱高全国第9位にもなった大規模集積市場。

（※2）百済貨物ターミナル駅……天王寺駅・平野駅で行っていた貨物取り扱いを集約するために、平成25年（2013年）に作られた貨物専用駅。

（※3）いまざとライナー（BRT）……大阪市都市交通局と大阪市高速電気軌道（Osaka Metro）は、地下鉄今里筋線延伸部（今里～湯里六丁目）における需要の喚起・創出および鉄道代替の可能性を検証するため、「いまざとライナー」（BRT）の運行による社会実験を2019年4月1日から開始している。

（※4）JR東部市場前駅……戦前から同駅付近に百済駅（関西線）が置かれていたが、同駅が平成元年（1989年）に新設される。

参考：<http://tobusuinaka.com/aboutus>

参考：<https://www.city.osaka.lg.jp/higashisumiyoshi/page/0000033838.html>

参考：<https://www.city.osaka.lg.jp/toshikotsu/page/0000433321.html>



大阪市中央卸売市場東部市場の様子

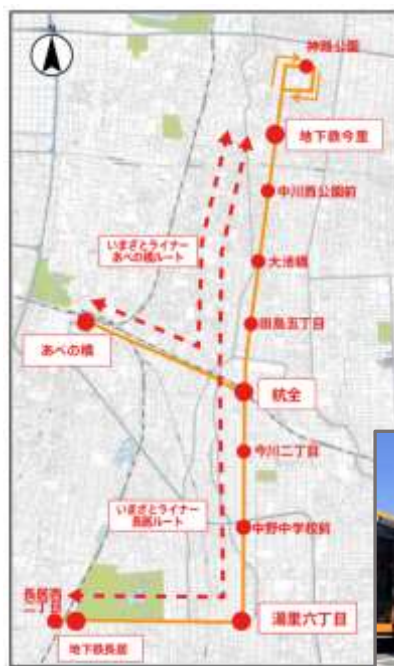
<https://www.city.osaka.lg.jp/shijo/page/000002893.html>（写真）



製造業の事業所数が大阪市内1位。働く人や技術の魅力を紹介するリーフレットは100社にのぼる

参考：<https://www.city.osaka.lg.jp/ikuno/page/0000347741.html>

写真提供：一般社団法人いくのもり



いまざとライナー（BRT）運行ルート <https://brt.osakametro.co.jp/>

4 校舎活用コンセプト

4-1 基本的な考え方

(1) 防災拠点としての機能を有することが大前提

生野区の西部地域は密集住宅市街地で防災上も危険なエリアであり、避難所確保の必要性から「小学校の跡地に関しては防災拠点として残す」方針であり、閉校する小学校跡地は売却処分とせず、災害時の避難場所として残し、避難所の運営や避難生活時に必要となる資機材の配備など、防災拠点機能を有することを前提に活用を行っていく。

(2) 地域コミュニティ機能

地域コミュニティ機能を有するために、現在学校を活用して行われている地域活動については、できる限り活動団体のニーズを踏まえた対応をしていく。これからの地域活動については、地域ニーズを踏まえながら事業者・地域と協議のうえ対応していく。

(3) パブリックマインドと地域連携・地域貢献

パブリックマインドを有した事業者により、地域住民と緊密に連携し、地域貢献に資するような活用をしていく。

(4) 持続可能な跡地運営のスキームの導入

事業者と地域との連携・協働のもと、民間のノウハウを活用した自律的で持続可能な運営の仕組みを導入する。

(5) 校舎活用の「エリアへの波及力」の視点

校舎活用は、校舎単体だけではなく、周辺エリアと繋がりを持つものという認識のもと、周辺エリアも含めたまちづくりの視点を持った活用をしていく。

※「エリアの波及」とは活用事業が中長期的に周辺エリアおよび生野区のまちの魅力・価値を高め、地域住民・区民の暮らしの豊かさ、持続性を高めることにつながっていくことと定義する。



(6) 学校跡地を核としたまちづくり構想の「学び」の視点

まちづくり構想では、子どもたちや子育て世代をはじめ、多世代にわたって魅力的な環境を創出していくために、学びの場はまち全体にあると捉え（まちぐるみ教育）、今すでにある生野区の産業や人材、文化などの強みを活かしながら「新しい学びのかたち（みんなの学校）」をつくり、学校跡地を核として生野区のまち全体の再生につなげていく考え方・ビジョンが示されている。本構想を踏まえ、生野区の課題を解決し、まち全体の再生ビジョンを実現するために、新しい「学び」の視点を持った活用をしていく。

4-2 活用にあたり求めるマインド

4-1における「基本的な考え方」を踏まえ、まちづくり構想の「みんなの学校/まちぐるみ教育」の考えを実現していくために、次の「前提とするもの（各校共通）」、「望まれるもの（各校共通）」、「生野南小学校で特に望まれるもの」の3つの枠を設定し、これらのマインドに沿った活用を行う。

1. 前提とするもの（各校共通）

校舎活用において前提となるマインド

- 災害時には避難所として開放するとともに、地域の防災拠点としての機能を有するもの
- パブリックマインドを持った活用とし、地域と緊密に連携し、地域貢献に資する地域コミュニティ機能を有するもの
- 基本的に校舎施設全体を一括して運営しつつ、かつ持続可能な運営となるもの

2. 望まれるもの（各校共通）

校舎活用において望ましいとされるマインド

- 人々に居場所と持ち場を提供できる地域包摂的視点を有するもの
- 周辺エリアの特徴・文化を活かした様々な学びの機会や雇用の場の創出へとつなげ、生野区ならではの教育・仕事・暮らしをまち全体で育てていく拠点となるもの
- 周辺エリアとのつながり・波及と地域活性化が見込めるもの

3. 生野南小学校で特に望まれるもの

生野南小学校の校舎活用において特に望ましいとされるマインド

子どもも大人も、「新たな学び」と「交流/居場所」の機会が得られる場所であること

※ 学びの場（交流の場）とは、以下広義の意味を指す

広い意味での住民にとっての学びの場や交流/居場所の機会が提供されるもの。

必ずしも校舎全てが学びの場である必要はなく、以下のような機会も提供される場を意味する。

- ・一般的な意味での“学校”での学びに限定するものではなく、体験や表現等を通しての学び（“学校”では得られない様々な学び）
- ・様々な仕事に触れる機会、地域の文化や技術に触れる機会、多世代と交流することができる 等